

朱里エイコには、こんな逸話も残っている。ラスベガスのステージで歌っていた時、偶然、ビートルズのリンゴスターが遊びに来ていた。彼女の歌が終わると同時にアンコールを繰り返し、スタンディングオベーション。「食事でもしないか」と誘われたが、彼女は断ってしまったという。

その時のことについて、「あのときはまだ純情で、よくわかっていなかった。もし断っていなかったら、第二のオノ・ヨーコになれたかもしれないのに」と後年語っている。

そんな朱里エイコだったが、一九八〇年代にうつ病、入院、失踪事件と続き、信用を失ってしまう。そして、二〇〇四年、自宅にて死去。享年五十八歳。亡くなるときは生活保護を受けていたという。

亡くなる少し前に「あの人は今」という番組に出ていた。病気で見る影もない姿になってしまった彼女を、まるで笑い者にでもするかのような演出で、観ていて腹が立った。

わずか十八歳で単身渡米した。才能があった。歌唱力も素晴らしかった。努力した。頑張った。でも、最後は幸せをつかめなかった。幸せの女神は何度も、彼女に微笑みかけたのに。

彼女も幸せが似合わなかったのだろうか？ 幸せになるのが怖かったのだろうか？では、幸せの似合う人って誰だろうか？

そもそも幸せってなんだろうか？

(了)